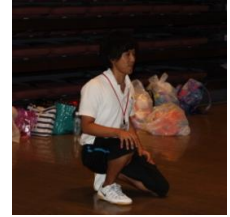


『 体育遊び 』

第2部は場所を変えてホールにおいて体育遊びが始まった。講師はさくら保育園の副園長、安田量寛先生。所謂イケメン先生だ。今回の研修では、参加者を年中の園児と見立てて、安田先生が保育士の先生というシチュエーションで行われた。



まずは、服装のチェックから。最近Tシャツをズボンに入れるという習慣はなくなってきたが、転倒防止などの子ども達の事故を考えてきちんとインすることが励行された。あいさつを終えた後、柔軟体操が行われた。

この柔軟体操では、ただ単にストレッチをするだけではなく、遊びを加えることによって、子ども達も楽しんでやれるスタイルをとっていた。子どもは集中力を持続するのが難しいことから、この遊びを交えて活動を進めるという方法は、体育あそびに限らず日々の保育にも取り入れることが出来るのではないだろうか。



また、この柔軟体操では、頭や足などを触ることによって体の部位を教えることにもなるし、体の異常がないかどうかの体調管理を行えるなど、一石三鳥ぐらいの効果があるだろう。



次は基本動作の「立つ」そして「すわる」の練習。ここで大事なのは、誉めるということ。子どもは小さいことでも誉められるとイキイキする。一番に立てた子、一番に座れた子を誉めることで子ども達の意欲もさらに高まるはずだ。

次にマット遊びに移った。ここでは、まず基本の動きから応用の動き、最終的には前転が出来るようになるというようになっていた。今回の研修では参加者が大人であったため、すべてのことをやれたのだが、これを子ども達に教えるとうなるのだろうかという興味をもってみたい。子どもは月齢や運動神経によって様々であるので、順序を経て少しずつ出来るようになるように進めていくこと、そして、1回ではなく回数を重ねていくことが大事ではないかと思う。



マット遊びが終わり、最後にいろいろな鬼ごっこを行った。これらの鬼ごっこにも体重移動などの体育の要素を取り入れながら遊ぶことが出来るようになっていたので感心させられた。この体育あそびをみた感想としては、ただ遊ぶのではなく、ルールを決めた遊びであるので、いい意味で緊張感のある活動になると思われる。基本を生かした応用の運動を行うので、一貫性が見られ、子ども達が考えて行動する力が生まれるだろう。

無事、行程のすべてが終わり、閉会式が行われた。今回の研修は、インドア、アウトドアというバランスのとれたものだったと思う。今から次の研修で何が行われるかが楽しみである。

